

## 三河地域出土の土師器皿について

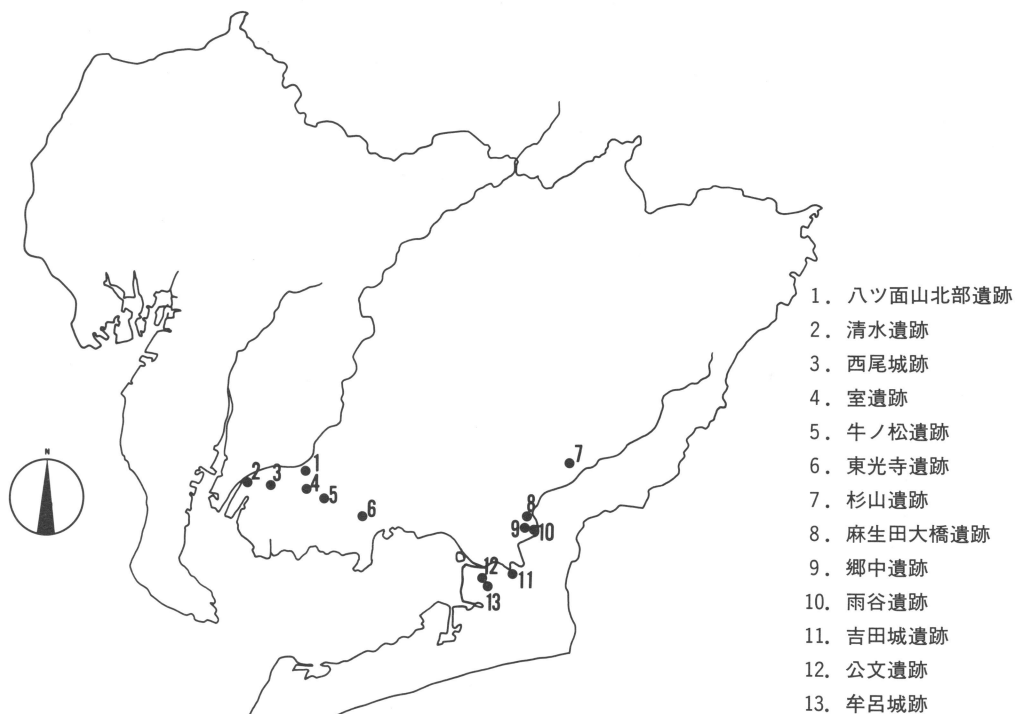
川井 啓介

### 1. はじめに

今年度発掘調査を行った額田郡幸田町牛ノ松遺跡で確認された、13世紀後半の屋敷地を区画すると思われる溝状遺構や、昨年度行われた西尾市室遺跡の発掘調査において検出された土坑・溝状遺構から、灰釉系陶器等と併せ中世土師器皿（以下、土師皿と略す）が出土している。この土師皿は、近年中・近世集落の発掘調査の進展により、かなりの資料的蓄積が見られるようになってきている。事実、尾張低地部や名古屋台地上の土師皿の編年的位置付けは、佐藤公保氏<sup>(1)</sup>・尾野善裕氏<sup>(2)</sup>により、その実態が明らかにされつつある。

これに対し、三河地方においては新城市杉山遺跡の発掘調査結果に基づく北村和宏氏<sup>(3)</sup>のそれが見られるに留まっている。

そこで本稿では、三河地域を西三河地方（＝矢作川流域）、東三河地方（＝豊川流域）に区分し、古代末から近世に至る土師皿の変遷を考えてみたい。但し、資料的制約から西三河地方については特に南部地域（西尾市・額田郡幸田町）に限定して考える。



第1図 中・近世土師器皿出土遺跡位置図（1：1,000,000）

## 2. 具体的事例の検討

以下、先に述べた2地域毎に土師皿が出土している個別遺跡を具体的に見てゆくが、その前にここで土師皿の分類を示す。基本的には佐藤・北村両氏の分類に拠るが、今回は成形・整形方法を中心とした分類を試みた。

A類：ロクロ成形。体部内外面ナデ調整。(佐藤分類：A類)

A<sub>1</sub> 体部下半丸みあり、口縁直立気味。口径15cm前後。

A<sub>2</sub> 底部肥厚で突出。口径8cm前後。

B類：ロクロ成形。(佐藤分類：F類)

B<sub>1</sub> 体部内外面ナデ調整。口径14cm前後。

B<sub>2</sub> 体部内外面ナデ調整。口径11cm前後。

B<sub>3</sub> 体部内外面ナデ調整。口径8cm前後。

B<sub>4</sub> 内面ナデ、外面無調整。口径15cm前後。

B<sub>5</sub> 内面ナデ、外面無調整。口径11cm前後。

C類：非ロクロ成形。体部内面から外面口縁部に横ナデ。(佐藤分類：B類)

C<sub>1</sub> 口径12cm前後。

C<sub>2</sub> 口径8cm前後。

D類：内面ナデ、外面無調整。(佐藤分類：D類、北村分類：F<sub>b</sub>類)

D<sub>1</sub> 口径11cm前後。

D<sub>2</sub> 口径8cm前後。

E類：非ロクロ成形の小皿。断面「コ」字。(佐藤分類：E類)

F類：非ロクロ成形。口縁端部つまみ上げ。大型品が多い。(北村分類：A類)

### (1) 西三河地方(南部地域)

3市町6遺跡から土師皿が出土している。遺物が出土している遺構の時期は、12世紀後半から19世紀半ばに及んでいる。

#### ①ハッ面山北部遺跡<sup>(4)</sup> (所在地：西尾市ハッ面町蔵屋敷・後土、中原町道東・前畑)

平成3年度発掘調査で検出された土坑(SK12)からA<sub>2</sub>類(8~10)、B<sub>1</sub>類(1~4)、B<sub>3</sub>類(5~7)の土師皿が一括出土している。他に共伴遺物が見られないが、時期は遺構の検出状況から13世紀中葉に比定されている。この報告書で行われている土師皿の分類と今回の分類との関係は、A<sub>2</sub>類=皿A-4類、B<sub>1</sub>類=皿A-2類、B<sub>3</sub>類=皿A-3類となる。また同調査で検出された土坑(SK15)からは土師皿B<sub>2</sub>類(11、報告書分類皿A-1類)が、13世紀中葉の灰釉系陶器の椀(14)、皿(12・13)とともに出土している。

また平成4年度の調査で確認された土坑墓（SZ01）からは、13世紀後半の灰釉系陶器の碗（17）とともにC<sub>2</sub>類（15・16、報告書分類皿B-1類）が出土している<sup>(5)</sup>

## ②清水遺跡<sup>(6)</sup>（所在地：西尾市中畑町地内）

平成元・2年度に行われた発掘調査で、16世紀前半から19世紀前半に及ぶ遺構が検出されている。

16世紀前半：SK066・067・113（いずれも平成元年度調査）から、土師皿B<sub>2</sub>類（18）、B<sub>5</sub>類（19）、C<sub>2</sub>類（24）、D<sub>2</sub>類（22）が出土している。共伴遺物としては、瀬戸・美濃産の天目茶碗（20）、播鉢（21）がある。

17世紀末～18世紀前半：SK25（平成2年度調査）から、土師皿B<sub>2</sub>類（26）が出土している。共伴遺物としては、瀬戸・美濃産の御室茶碗（27）、香炉（28）が出土している。

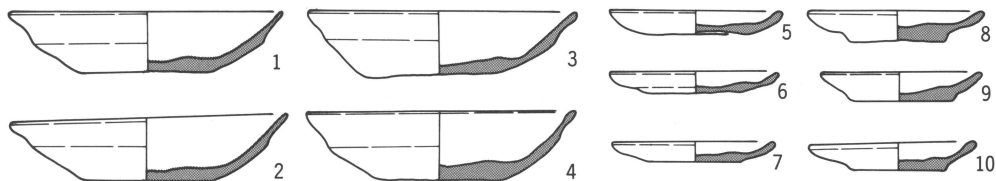
18世紀後半：SD02（平成元年度調査）から、土師皿D<sub>2</sub>類（29・30）が出土している。共伴遺物には瀬戸・美濃産の腰鍔茶碗（31）、播鉢（32）がある。

19世紀前半：SK031（平成元年度調査）からは土師皿D<sub>2</sub>類（33～35）が、SD02（平成2年度調査）から土師皿D<sub>1</sub>類（37）が出土している。共伴遺物としては、鉄釉播鉢（36）、肥前系磁器碗（38）、瀬戸・美濃産の梅文皿（39）がある。

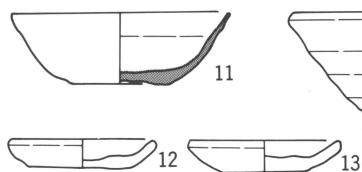
## ③西尾城跡<sup>(7)</sup>（所在地：西尾市錦城町地内）

平成元年度調査で検出された区画溝（SD04）から、土師皿B<sub>1</sub>類（40）、B<sub>2</sub>類（41）、B<sub>3</sub>類（42）、C<sub>1</sub>類（43・44）、C<sub>2</sub>類（45）が出土している。共伴遺物には瀬戸・美濃産の播鉢（46）、内耳鍋（47・48）が出土している。このうち、播鉢は16世紀前半（大窯Ⅱ期）に比定されるが、遺物が出土した区画溝は、1580年代に行われた西条城（＝西尾城）東丸の増改築に伴い廃絶された可能性が高い。したがって、これらの遺物群の時期は16世紀後半と考えるべきであると思われる。

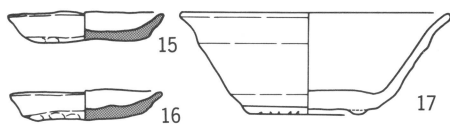
SK 12



SK 15

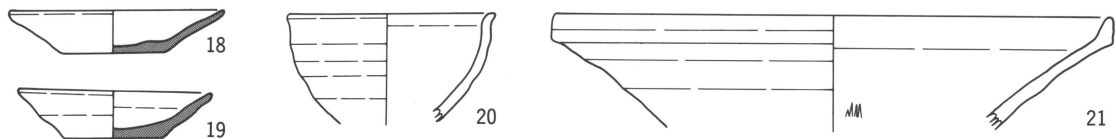


SZ 01

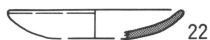


第2図 ハツ面山北部遺跡出土遺物（1：4）

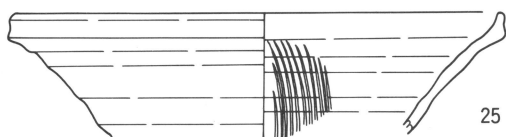
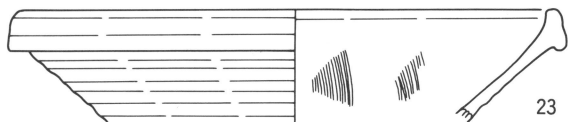
SK 066 (平成元年度)



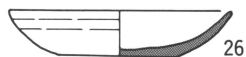
SK 067 (平成元年度)



SK 113 (平成元年度)



SK 25 (平成2年度)



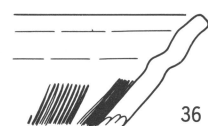
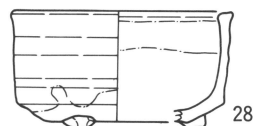
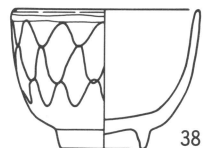
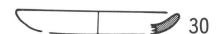
SD 02 (平成元年度)



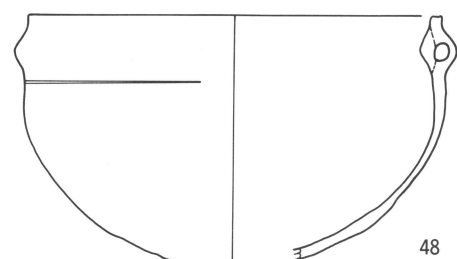
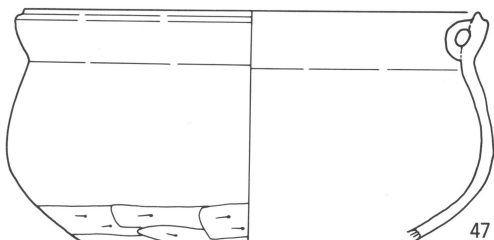
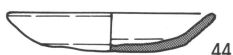
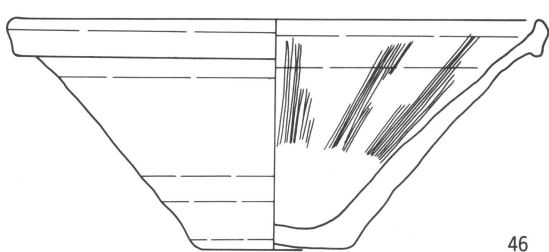
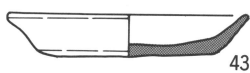
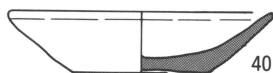
SK 031 (平成元年度)



SD 02 (平成2年度)



第3図 清水遺跡出土遺物 (1:4)



第4図 西尾城跡 SD 04 出土遺物 (1:4)



④室遺跡<sup>(8)</sup>（所在地：西尾市室・家武・駒場町地内）

平成3年度の発掘調査で確認された大溝最下層から、土師皿A<sub>1</sub>類（49）、B<sub>2</sub>類（50）、B<sub>3</sub>類（51）、が出土している。共伴遺物は灰釉系陶器の椀（52・53）・皿（54～56）が出土している。いずれの遺物も12世紀後半に位置づけられる。

⑤牛ノ松遺跡<sup>(9)</sup>（所在地：額田郡幸田町字牛ノ松地内）

平成4年度に行われた発掘調査で検出された、谷地形に沿うように掘削された集落を取り囲む溝から、土師皿B<sub>2</sub>類（57～60）、B<sub>3</sub>類（61）、C<sub>1</sub>類（62）が出土している。共伴遺物には灰釉系陶器の椀（63・64）・皿（65～67）、伊勢型鍋（68）があり、これらの陶器類は13世紀後半から14世紀初頭に位置づけられる。

⑥東光寺遺跡<sup>(10)</sup>（所在地：額田郡幸田町大字深溝字上天白・天白・城跡）

平成元年度の発掘調査で検出されたL字に屈曲する溝から、土師皿C<sub>2</sub>類（69・70）、F類（71・72）が出土している。共伴遺物としては、灰釉縁釉皿（73）、所謂「くの字」状口縁鍋（74）がある。陶器類は概ね15世紀後半（古瀬戸後期）に比定される。

## (2) 東三河地方

3市7遺跡から土師皿が出土している。土師皿が出土している遺構の時期は、12世紀中葉から19世紀中葉に及んでいる。しかし、14世紀代の類例は少ない。

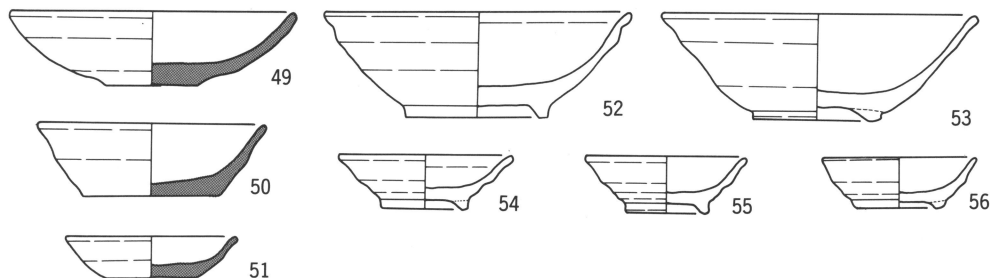
⑦杉山遺跡<sup>(11)</sup>（所在地：新城市杉山地内）

昭和61・62年度調査で検出された複数の遺構から土師皿が出土している。遺構と出土遺物は以下の通りである。

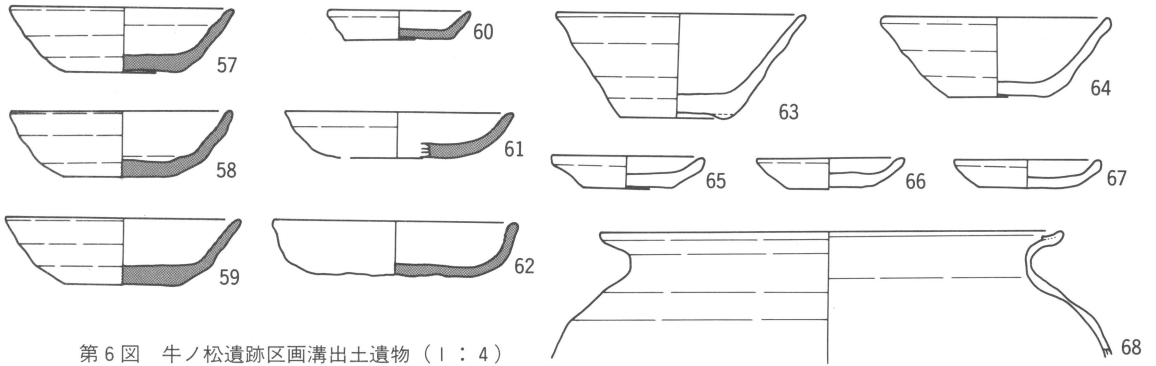
S K1004：土師皿D<sub>2</sub>類（75）、F類（76）が出土している。共伴遺物には「くの字」口縁鍋（77）があり、時期は15世紀～16世紀初頭に比定される。

S K1005：土師皿D<sub>2</sub>類（78）、F類（79）が出土している。共伴遺物には「くの字」口縁鍋（80）があり、時期は15世紀後半～16世紀前半に比定される。

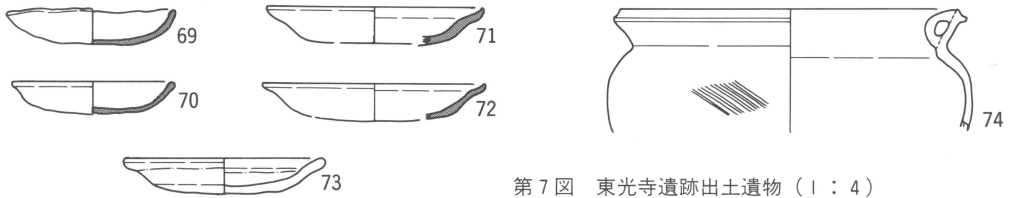
S D13：土師皿D<sub>1</sub>類（82）、D<sub>2</sub>類（81）が出土している。共伴遺物には近世陶器椀（83）があり、時期は19世紀代に比定される。



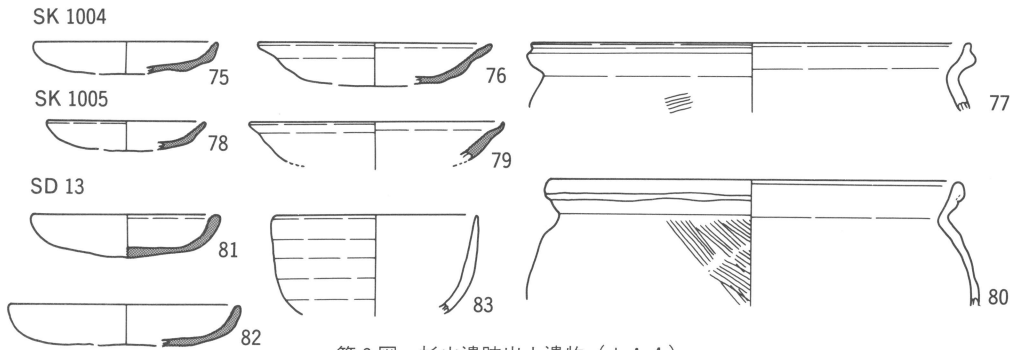
第5図 室遺跡大溝最下層出土遺物（1：4）



第6図 牛ノ松遺跡区画溝出土遺物 (1:4)



第7図 東光寺遺跡出土遺物 (1:4)



第8図 杉山遺跡出土遺物 (1:4)

⑧麻生田大橋遺跡<sup>(12)</sup> (所在地：豊川市麻生田町大橋)

昭和63年度・平成元年度の発掘調査で検出された13世紀から18世紀にかけての遺構から土師皿が出土している。

S K 600：径 3 m を越える大型の土坑から土師皿C<sub>2</sub>類 (83～85)、F 類 (81・82) が出土している。共伴遺物に伊勢型鍋 (86) がある。この遺構の時期は13～14世紀代に比定されている。

S K 650：長径160cm、短径86cmの方形の土坑墓から土師皿C<sub>1</sub>類 (87)、C<sub>2</sub>類 (88) が出土している。共伴遺物として瀬戸・美濃産の鉄釉播鉢 (89) が出土している。この遺構の時期は15世紀末～16世紀初頭に位置づけられる。

S K 548：長径272cm、短径190cmの長方形の土坑。土師皿C<sub>1</sub>類 (92・93) が出土している。共伴遺物として瀬戸・美濃産の鉄釉播鉢 (94)、折縁盤 (95) が出土している。この遺構の時期は16世紀前半以降に比定される。

S D 41：幅0.5～1.0mの溝から17～18世紀代に比定される瀬戸・美濃産の香炉（98）とともに土師皿D<sub>1</sub>類（96・97）が出土している。

⑨郷中遺跡<sup>(13)</sup>（所在地：豊川市三谷原町）

昭和63年度調査のD地区で検出された幅4.4m、深さ1.75mの溝（S D 06）から土師皿が出土している。発掘調査時点で任意に溝を上層、中層、下層、最下層の4層に区分しており、その各層から灰釉系陶器の椀・皿とともに土師皿が出土している。そこから出土している遺物は上・中層が13世紀代、下層が13世紀前葉～12世紀後葉、最下層が12世紀後半に比定される。出土した土師皿は以下に記すものである。

最下層：A<sub>2</sub>類（96・97）、B<sub>3</sub>類（98）

下層：A<sub>2</sub>類（101）、B<sub>3</sub>類（102）、C<sub>1</sub>類（104）、C<sub>2</sub>類（105）、E類（103）

中層：A<sub>2</sub>類（109）、C<sub>1</sub>類（110）、C<sub>2</sub>類（111）

上層：C<sub>2</sub>類（115）

⑩雨谷遺跡<sup>(14)</sup>（所在地：豊川市三谷原町）

昭和63年度調査のC－2区土器集中区から土師皿C<sub>1</sub>類（117・118）、C<sub>2</sub>類（119・120）が出土している。共伴遺物として灰釉系陶器の椀（121）がある。この遺構から出土している土師皿は13世紀代と考えられる。

⑪吉田城遺跡<sup>(15)</sup>（所在地：豊橋市八町通）

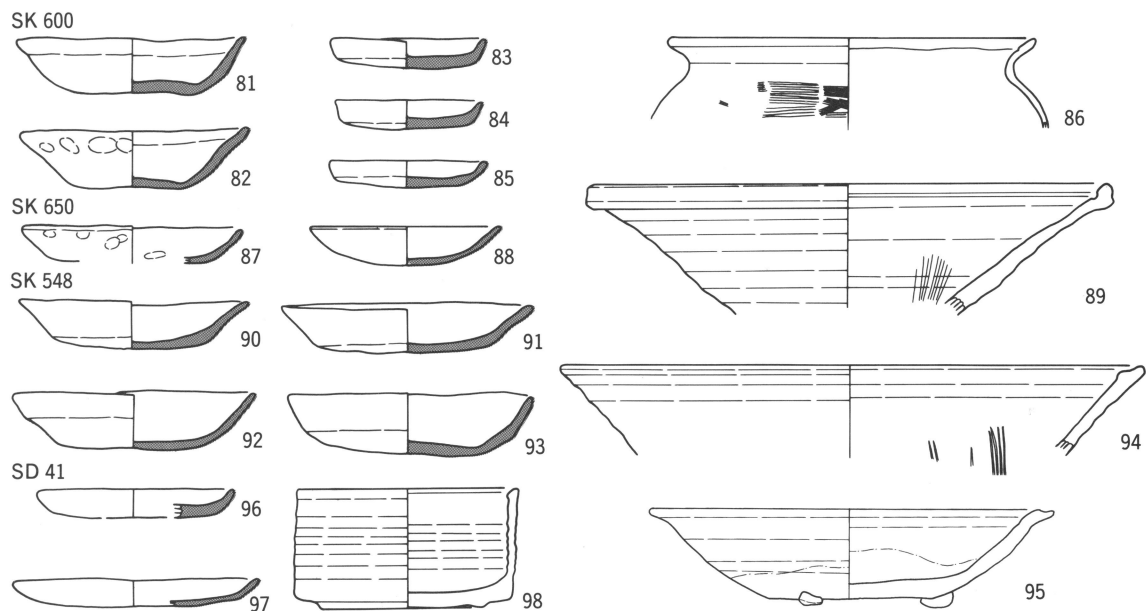
平成元年度調査で16世紀から19世紀に至る遺構から土師皿が出土している。

S D 102：幅6.0m以上、深さ1.5m以上の溝から土師皿C<sub>1</sub>類（122～124）、D<sub>1</sub>類（125～127）が出土。共伴遺物には、瀬戸・美濃産の天目茶椀（128・129）、鉄釉播鉢（130・131）がある。遺構の時期は16世紀前葉～後葉に比定される。

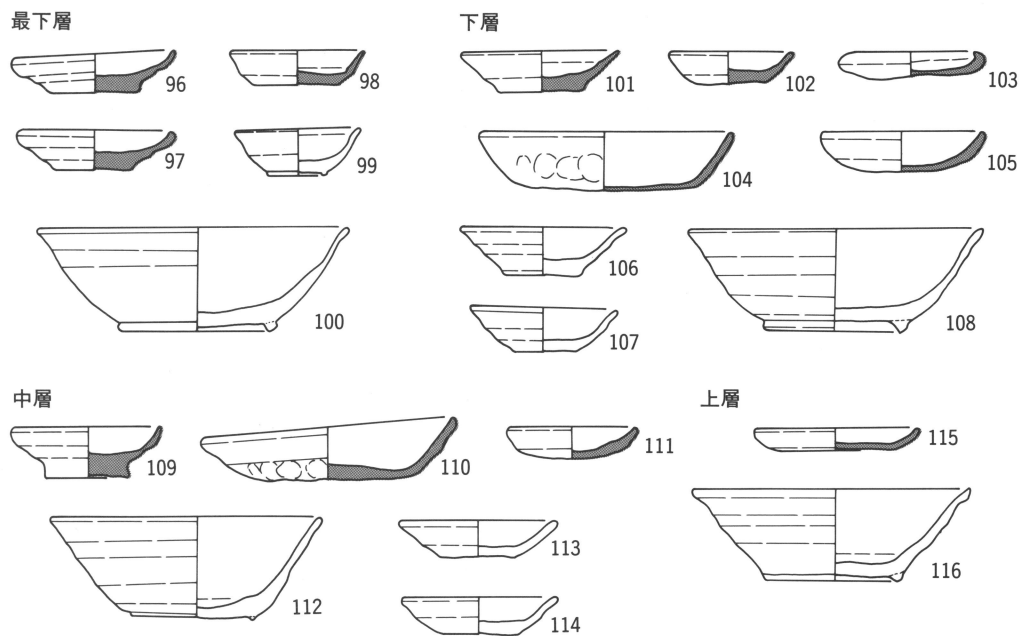
S D 101：幅1.6m、深さ0.7mの溝から土師皿C<sub>1</sub>類（132～134）、D<sub>1</sub>類（135・136）、F類（137）が出土。共伴遺物には、瀬戸・美濃産の天目茶椀（138・139）がある。遺構の時期は16世紀中葉～17世紀初頭に比定される。

S E 01：径1.5m、深さ4.6mの井戸から土師皿C<sub>1</sub>類（143）、D<sub>1</sub>類（140・141）、D<sub>2</sub>類（142）、F類（144・145）が出土している。共伴遺物に肥前系磁器の段重（149）、瀬戸・美濃産の長石釉皿（146・147）、灰釉小椀（148）がある。遺構の時期は17世紀後半～18世紀前半に比定される。

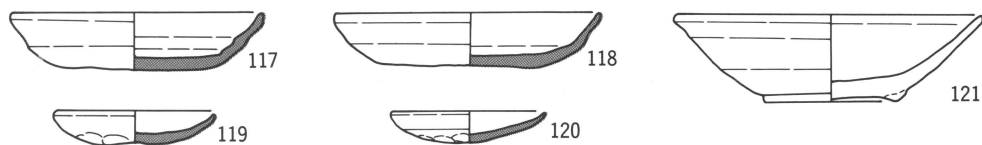
S K 01：江戸時代末期の廃棄土坑。肥前系磁器端反椀（152）、瀬戸・美濃産磁器椀（153）とともに土師皿D<sub>2</sub>類（150・151）が出土している。



第9図 麻生田大橋遺跡出土遺物 (1:4)



第10図 郷中遺跡 S D 06出土遺物 (1:4)

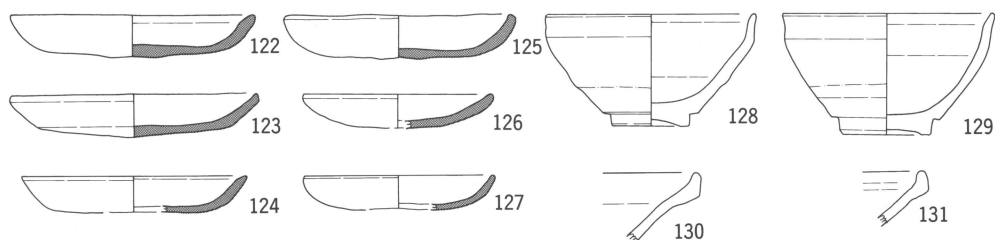


第11図 雨谷遺跡 C - 2 区土器集中区出土遺物 (1:4)

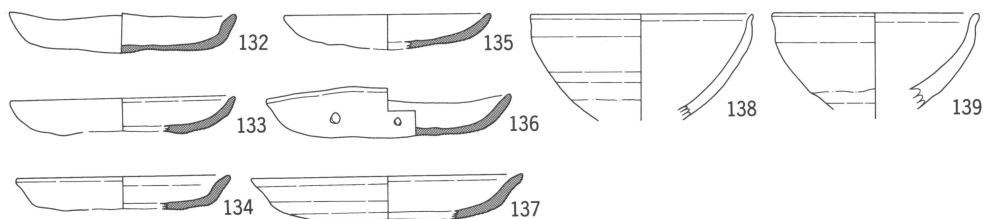
⑫公文遺跡<sup>(16)</sup> (所在地：豊橋市牟呂町字公文)

昭和61年度調査で検出された幅4.04m、深さ1.6mの溝（SD-1）から出土している。この溝は発掘調査の掘削時に4回（層）に区分されており、第4回（最下層）からは土師皿A<sub>2</sub>類（154）、B<sub>1</sub>類（156・157）、D<sub>2</sub>類（155）が、第3回（下層）からは土師皿B<sub>4</sub>類（161）が出土している。これらの土師皿の時期は、共伴する灰釉系陶器によれば第4回（最下層）は12世紀中葉、第3回（下層）は12世紀後葉～13世紀中葉に比定される。

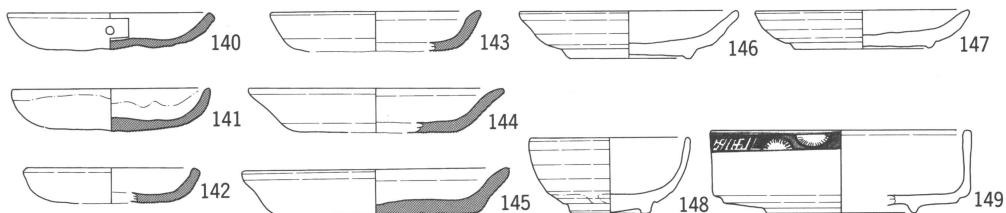
## SD 102



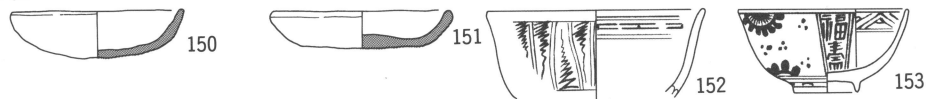
## SD 101



## SE 01



## SK 01

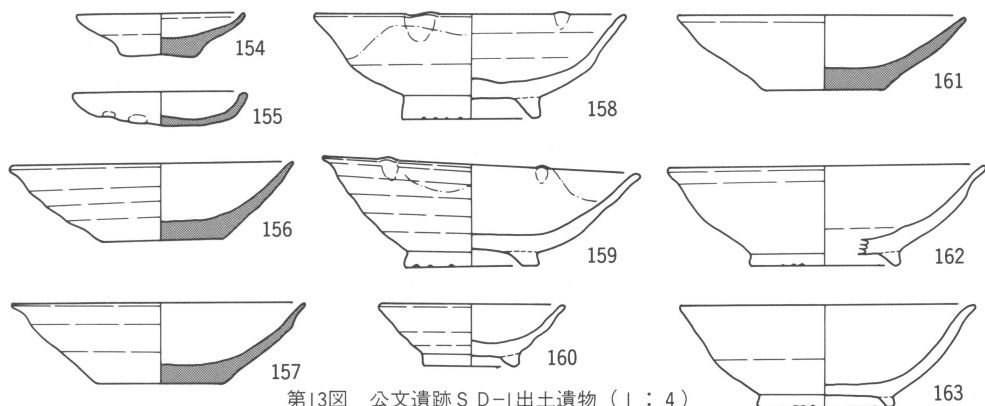


第12図 吉田城遺跡出土遺物（1：4）

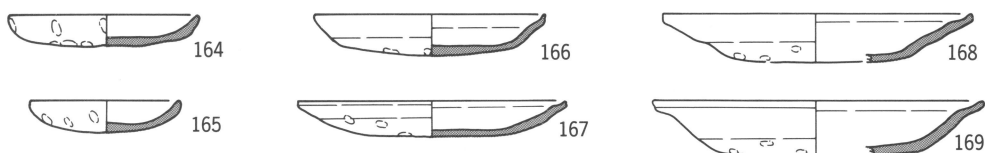
⑬牟呂城跡<sup>(17)</sup>（所在地：豊橋市牟呂町字公文）

昭和61・62年度の発掘調査で確認された土坑（S K-24）から土師皿D<sub>1</sub>（164）、D<sub>2</sub>類（165）、F類（166・167）が出土している。この土坑出土の遺物に付いては小林久彦氏によって分類されているが、今回の分類との関係はD類＝皿A類、F類＝皿B類である。本遺構の時期は16世紀初頭～中葉にかけてである。

## SD-1（4回目）



第13図 公文遺跡S D-1出土遺物（1：4）



第14図 牟呂城跡S K-24出土遺物（1：4）

以上、遺跡毎に土師皿の出土状況を見てきたが、これを基に西・東三河地方の土師皿の変遷の特徴をまとめてみる。

まず、成形技法の面から見てみると、西三河地方では、図示しえなかったが室遺跡のS D61最下層から非ロクロ成形の土師皿も出土しており、12世紀中葉から19世紀に至るまでロクロ・非ロクロ成形の土師皿が共伴すると思われる。個別遺構毎の数量的検討を行わないままに言及することについては慎重を要するが、整理途中である室・牛ノ松遺跡共にロクロ成形による土師皿が中心をなしている。さらに八ッ面山北部遺跡や西尾城跡についても同じ傾向を示している<sup>(18)</sup>

これに対し、東三河地方においては、郷中遺跡や公文遺跡の出土状況から理解される様に、12世紀後半に非ロクロ成形の土師皿が出現し、13世紀中葉以降はロクロ成形による土師皿は、共伴するものの量的には極少量であり、西三河地方とは逆に非ロクロ成形による土師皿が近世に至るまで一貫して作り続けられている。

このことは、西・東三河地方共に非ロクロ成形の土師皿の出現時期こそ尾張地方のそれと動きを一つにするものの、尾張地方においては13～14世紀は非ロクロ成形の土師皿が中心となり、15世紀代に再びロクロ成形土師皿が出現するという動きに対し、西三河地方では中世を通じてロクロ成形が主流をなし、東三河地方では13世紀中葉以降ロクロ成形が再出現しない、と様相が大きく異なっている。

次に整形技法から考えて見た場合、西・東三河地方共に基本的には内面ナデ・外面口縁部にヨコナデが施されている。これが15世紀以降になると、内面には従来通りナデ調整が施されるが、外面口縁部のヨコナデが省略されること（D類）が多くなっていく。更に、17世紀以降はこのタイプが中心を占めるようになる。

また、口径に関しては時代が新しくなるに従って縮小する傾向が窺われる。12世紀後半以降中世初期は、大（15～13cm）・中（12～10cm）・小（10cm以下）の3セットが存在するが、西三河地方では17世紀以降、東三河地方では14世紀以降、それまでの大（15～13cm）に相当するものが消滅し、中（12～10cm）・小（10cm以下）の2セットへと変化する。但し、東三河地方では15・16世紀代に口縁端部をつまみあげるF類が盛行し、これにあわせ口径も17cmを越える大型品が一時期出現する。

### 3. まとめにかえて

本稿は、三河地域に於ける土師皿の変遷を明らかにすることを主眼として分析を試みたが、個別遺跡の資料収集に終始した感が強く、課題ばかりが積み残されたものとなった。以下、今後の検討課題を述べてまとめとしたい。

まず第一に、具体的遺跡を例としての数量的分析が一切欠如している点である。西・東三河地方ともに、中近世を通じてロクロ・非ロクロ成形による土師皿が共存し、西三河地方ではロクロ成形が、東三河地方では非ロクロ成形が主流であると述べた事は、あくまで発掘調査時及び報告書作成過程での感覚的な側面に拠るものであり<sup>(19)</sup> 具体的出土量の比較を成しえなかった。今後個別遺跡毎の数量的分析に基づく出土遺物全体に占める割合を具体的に提示することが、地域差を一層明確にするとと思われる。さらに土師皿の使用痕の有無がその使用方法の解明に繋がるものとする<sup>(20)</sup>

第二に尾張地方との土師皿の成形方法の相違をどの様に理解すべきであるのか、さらに言及するならば、愛知県内の尾張・西三河・東三河各地方の土師皿のあり方の相違は如何なる事由に起因しているのであろうか。3地方の土師皿の変遷で、唯一その動向が一致する12世紀後半以降非ロクロ成形による土師皿が出現すると言う点に関しては、従来の研究史に示されるように、京都周辺に於ける土師皿生産の影響に拠る<sup>(21)</sup>ものとして理解するこ

とが可能であると思われる。但しその様に理解した場合、中世を通じてロクロ成形土師皿が主流を占める西三河地方と、非ロクロ成形による土師皿が中心をなす尾張・東三河地域の相違が、京都周辺とのつながりの密・疎に拠るものであるとするならば、それを決定する要因が何であるのかを明らかにする必要がある。

また、尾張地方で15世紀代にみられるロクロ成形土師皿の再出現を、窯業地の影響をうけて成立した在地系の土器と考え、大窯の出現・成立にもとめる点についても<sup>(22)</sup>そのみでは理解しえない様に思われる。西加茂郡三好町福谷地内の灰釉系陶器窯のK-G-87号窯<sup>(23)</sup>からロクロ成形の土師皿が出土していることにより、先の考えが示されているのであるが、それならば何故中世においても瀬戸・美濃地方では灰釉系陶器を産出する窯が存在しているにもかかわらず、尾張地方ではロクロ成形の土師皿が出現しないのであろうか。同様に東三河地方に関しても、渥美・湖西地方という灰釉系陶器の生産地が控えているにもかかわらず、ロクロ成形の土師皿が再出現しないのであろうか。さらに最も窯業生産地との直接的関係の薄い西三河南部地域でロクロ成形土師皿が中心となることは理解しがたい<sup>(24)</sup>

この事は愛知県以外の他府県での同時期の土師皿の出土状況との比較により理解することも可能である。具体的には、古代末から中世初頭にかけて東北地方の拠点であった奥州柳之御所ではロクロ成形と非ロクロ成形の土師皿が共伴する<sup>(25)</sup>中世東国においても幕府が設置された鎌倉では、13世紀初頭に非ロクロ成形の土師皿が出現するが、それ以後もロクロ成形の土師皿と共存している<sup>(26)</sup>更に遠江では浜名湖を境として、西岸は非ロクロ成形が中心で少量のロクロ成形のそれが共伴するのに対し、東岸では逆にロクロ成形の土師皿が主流をなし、非ロクロ成形のそれが従となる<sup>(27)</sup>また三重県では北伊勢地域では非ロクロ成形の所謂京都系土師皿は出土するが、南伊勢地域での出土例は報告されていない<sup>(28)</sup>

この様に土師皿のあり方、特に成形方法に限定して考えるならば、地域によるばらつきが、それもかなり狭い範囲内での相違が看取れる。この事は土師皿の製作・供給がかなり狭い範囲で行われていた事を物語っている。しかし、多くの地域においてロクロ・非ロクロ成形双方の土師皿が共伴する状況が多いように思われる。そしていずれが主となり、いずれが従となるかは、土師皿の製作地を含む供給範囲の地域性によって決定付けられる可能性が高い。そして、その地域性は、政治史的側面、経済史的側面等の各種の要因によって創出されるものと思われる。例えば、鎌倉期では京・寺社勢力と鎌倉・守護勢力とによる在地支配の問題、鎌倉後期に全国に広がりを見せる北条得宗家領との関係、南北朝期以降は、南・北朝への帰属の問題、守護大名・戦国大名の領国支配の展開等々<sup>(29)</sup>

いずれにせよ土師皿の供給圏は先に見たようにかなり狭小であると思われ、狭小であればあるほど土師皿製作が職能として権力によって把握され易く、領主権力の規制を受け、



当該勢力地域での特色を色濃く反映する様になるのではないだろうか。今後の検討課題である。

| 地方・分類       |        |                | 時期 |  | 12C |  | 13C |  | 14C |  | 15C |  | 16C |  | 17C |  | 18C |  | 19C |  |
|-------------|--------|----------------|----|--|-----|--|-----|--|-----|--|-----|--|-----|--|-----|--|-----|--|-----|--|
|             |        |                |    |  | 前   |  | 前   |  | 前   |  | 前   |  | 前   |  | 前   |  | 前   |  | 前   |  |
|             |        |                |    |  | 後   |  | 後   |  | 後   |  | 後   |  | 後   |  | 後   |  | 後   |  | 後   |  |
| 西<br>三<br>河 | ロクロ成形  | A <sub>1</sub> |    |  | 〇〇  |  |     |  |     |  |     |  |     |  |     |  |     |  |     |  |
|             |        | A <sub>2</sub> |    |  |     |  | 〇〇  |  |     |  |     |  |     |  |     |  |     |  |     |  |
|             |        | B <sub>1</sub> |    |  |     |  | 〇〇  |  |     |  |     |  | 〇   |  |     |  |     |  |     |  |
|             |        | B <sub>2</sub> |    |  | 〇〇  |  | 〇〇  |  |     |  |     |  | 〇〇〇 |  | 〇〇  |  |     |  |     |  |
|             |        | B <sub>3</sub> |    |  | 〇〇  |  |     |  |     |  |     |  | 〇〇  |  |     |  |     |  |     |  |
|             |        | B <sub>4</sub> |    |  |     |  |     |  |     |  |     |  |     |  |     |  |     |  |     |  |
|             |        | B <sub>5</sub> |    |  |     |  |     |  |     |  |     |  | 〇〇  |  |     |  |     |  |     |  |
|             | 非ロクロ成形 | C <sub>1</sub> |    |  |     |  | 〇〇  |  |     |  |     |  |     |  |     |  |     |  |     |  |
|             |        | C <sub>2</sub> |    |  |     |  |     |  |     |  | 〇〇  |  | 〇〇〇 |  |     |  |     |  |     |  |
|             |        | D <sub>1</sub> |    |  |     |  |     |  |     |  |     |  |     |  |     |  |     |  | 〇〇  |  |
|             |        | D <sub>2</sub> |    |  |     |  |     |  |     |  |     |  | 〇〇  |  |     |  | 〇〇  |  |     |  |
|             |        | E              |    |  |     |  |     |  |     |  |     |  |     |  |     |  |     |  |     |  |
|             |        | F              |    |  |     |  |     |  |     |  | 〇〇  |  |     |  |     |  |     |  |     |  |
| 東<br>三<br>河 | ロクロ成形  | A <sub>1</sub> |    |  |     |  |     |  |     |  |     |  |     |  |     |  |     |  |     |  |
|             |        | A <sub>2</sub> |    |  | 〇〇  |  | 〇〇  |  |     |  |     |  |     |  |     |  |     |  |     |  |
|             |        | B <sub>1</sub> |    |  | 〇〇  |  |     |  |     |  |     |  |     |  |     |  |     |  |     |  |
|             |        | B <sub>2</sub> |    |  | 〇   |  |     |  |     |  |     |  |     |  |     |  |     |  |     |  |
|             |        | B <sub>3</sub> |    |  | 〇   |  | 〇〇  |  |     |  |     |  |     |  |     |  |     |  |     |  |
|             |        | B <sub>4</sub> |    |  |     |  | 〇〇  |  |     |  |     |  |     |  |     |  |     |  |     |  |
|             |        | B <sub>5</sub> |    |  |     |  |     |  |     |  |     |  |     |  |     |  |     |  |     |  |
|             | 非ロクロ成形 | C <sub>1</sub> |    |  |     |  | 〇〇  |  |     |  | 〇   |  | 〇〇  |  | 〇   |  |     |  |     |  |
|             |        | C <sub>2</sub> |    |  |     |  | 〇〇  |  |     |  | 〇   |  |     |  |     |  |     |  |     |  |
|             |        | D <sub>1</sub> |    |  | 〇   |  |     |  |     |  | 〇〇〇 |  | 〇〇  |  | 〇 〇 |  |     |  | 〇〇  |  |
|             |        | D <sub>2</sub> |    |  |     |  |     |  |     |  | 〇〇〇 |  | 〇〇  |  | 〇   |  |     |  | 〇〇  |  |
|             |        | E              |    |  |     |  | 〇〇  |  |     |  |     |  |     |  |     |  |     |  |     |  |
|             |        | F              |    |  |     |  | 〇   |  |     |  | 〇〇〇 |  | 〇〇  |  |     |  |     |  |     |  |

註

- (1) 佐藤公保「中世土師器研究ノート(1)」(『愛知県埋蔵文化財センター 年報昭和60年度』 1986)  
「中世土師器研究ノート(2)」(『愛知県埋蔵文化財センター 年報昭和61年度』 1987)
- (2) 尾野善裕「名古屋台地出土の中世土師質皿について」(『見晴台遺跡 第30次発掘調査の記録』  
名古屋市見晴台考古資料館 1992)
- (3) 「Ⅴ 考察」『杉山遺跡』(財愛知県埋蔵文化財センター 1988)
- (4) 『八ツ面山北部遺跡 Ⅱ』(西尾市教育委員会 1992)
- (5) 西尾市教育委員会松井直樹氏の御好意により未報告資料を掲載させて頂いた。
- (6) 平成元年度調査：『清水遺跡』(財愛知県埋蔵文化財センター 1991)  
平成2年度調査：『西尾市清水遺跡発掘調査報告書』(『愛知県埋蔵文化財センター 年報平成3  
年度』 1992)
- (7) 『加美遺跡』(財愛知県埋蔵文化財センター 1989) 掲載図版を使用した。また、遺物の実見  
に際しては西尾市教育委員会松井直樹氏・鈴木とよ江氏にご配慮頂いた。
- (8) 『愛知県埋蔵文化財センター 年報平成2年度』 1991
- (9) 『愛知県埋蔵文化財センター 年報平成4年度』 1993
- (10) 『東光寺遺跡』(財愛知県埋蔵文化財センター 1993)
- (11) 前掲注(3)による。
- (12) 『麻生田大橋遺跡』(財愛知県埋蔵文化財センター 1991)
- (13) 『郷中・雨谷』(豊川市教育委員会 1989)
- (14) 前掲注(13)による。
- (15) 『吉田城遺跡』(財愛知県埋蔵文化財センター 1992)
- (16) 『公文遺跡(1)』(豊橋市教育委員会 1988)
- (17) 小林久彦「牟呂城出土の土師器について」(『マージナルNo.9』愛知考古学談話会 1988)
- (18) 成形技法からみた西三河地方と東三河地方の境界は、東光寺遺跡周辺と考えられる。また西三  
河北部地域のそれについては、岡崎城二の丸跡では近世の遺構・包含層中より出土している土師  
皿は、ロクロ成形と非ロクロ成形の土師皿が共伴している。また、豊田市松平の三斗目・三本松  
遺跡から出土している中世前半の土師皿は、ロクロ成形のもののみである。  
(『岡崎城二の丸跡』 岡崎市教育委員会 1982、  
(『三斗目・三本松遺跡』財愛知県埋蔵文化財センター 1993)
- (19) 吉田城遺跡ではロクロ成形の土師皿は1点出土している。また、麻生田大橋遺跡は近世の遺構  
からロクロ成形のものが数点出土している。このことからすれば、東三河地域も2タイプの土師  
皿が共伴する可能性を含んでいる。
- (20) 土師皿はその出土状況等からその使用は一度のみであることがとらえられている。但し、牛ノ  
松遺跡の区画溝からは、その他の陶器類と共に廃棄される状態で土師皿が出土している。また吉  
田城遺跡からは灯明皿に転用されたものも確認されている。今後は使用方法の相違による成・整  
形方法や器型による分類が可能か否かを考える必要が有るように思われる。
- (21) 横田洋三「出土土師皿編年試案」(『平安京左京五条三坊十五町』財古代学協会 1981)、同「平  
安末～鎌倉の土師器皿」(『中世土器研究 19』 中世土器研究会 1982)、伊野近富「かわらけ  
考」(『京都府埋蔵文化財論集 第1集』 財京都府埋蔵文化財研究センター 1987)
- (22) 前掲注(1)
- (23) 浅田員由「山茶碗窯出土の土師器皿について」(『愛知県陶磁資料館研究紀要 5』)
- (24) 当該地域では、わずかに幸田窯の存在が知られるのみである。
- (25) 『岩手県埋蔵文化財発掘調査略報 昭和63年度分』(財岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センタ  
ー 1989) 等による。
- (26) 服部実喜「中世都市鎌倉における出土かわらけの編年的位置づけについて」(『神奈川考古 第  
19集』 神奈川考古同人会 1984)
- (27) 『長谷元屋敷遺跡 昭和61年度』(湖西市教育委員会 1987)
- (28) 新田 洋「三重における古代末～中世にかけての土器様相」、同「中・南伊勢における中世土  
師器」(『マージナル No.9』愛知考古学談話会 1988)
- (29) 短絡的に捉えることについては慎重を要するが、一つの考え方としては、例えば鎌倉時代にお  
いては、三河守護は足利一族であり、その守護所は岡崎矢作宿に置かれていたことが知られてい

る。さらに西三河南部地域は足利一門である東条・西条両吉良氏により中世を通じて支配されていた。これに対し東三河地域には伊勢神宮領が比較的多く存在している。この様な個別の在地支配の状況と土師皿のあり方を具体的に比較検討する事が、さらに理解を深めることに繋がると思われる。この点に関しては前掲註<sup>(28)</sup>において新田氏が南北朝の勢力範囲との関係について言及している。